



TITLE:

彙報

AUTHOR(S):

---

CITATION:

彙報. 人文學報 2000, 83: 337-353

ISSUE DATE:

2000-03

URL:

<https://doi.org/10.14989/48543>

RIGHT:

# 彙 報

1999年（平成11年）1月～1999年（平成11年）12月

## 研 究 状 況

### I 班 研 究

#### 日 本 部

##### 帝国の研究

班長 山本 有造

冷戦の終了、ソ連邦の崩壊とともに、諸民族・諸地域の間に遠心力が強まり、民族とは何か、国家とは何かがいま新たに問われはじめている。「民族自決に立脚した国民国家」という近代的理念の妥当性が再検討されるなかで、「帝国」という国家統合のあり方についても、改めて科学的分析が要求されつつある。

われわれの共同研究においては、これまでの「マルクス主義的経済帝国主義」論にとらわれることなく、世界史のかつ長期的な比較の立場に立って、「帝国」の原理と類型を整理・検討しようとする。

研究会は原則として隔週月曜日に開催し、平均2つの報告と討論を行っている。なお、とりあえずは2年間をもって研究会を終了し、研究報告を刊行する予定である。

班員 籠谷直人 菊池 暁 小牧幸代 水野直樹  
アントニー・ベスト 山室信一 安田敏朗（以上所内）杉山正明（文学研究科）秋田 茂（大阪外大）  
今田秀作（和歌山大）王 柯（神戸大）北川勝彦（関西大）杉原 薫（大阪大）山本 正（大阪経済大）

1月25日 報告 自由の帝国、「逸脱」、非公式の帝国、言説の帝国—アメリカ帝国主義をめぐる諸議論—

ゲスト・杉山 茂

書評 野田宣雄『20世紀をどう見るか』  
文芸春秋新書

野田宣雄編『よみがえる帝国』

ミネルヴァ書房 籠谷直人

2月8日 報告 アジア太平洋経済圏の興隆

杉原 薫

書評 毛利和子『周縁からの中国—民族問題と国家—』東京大学出版会

王 柯

2月22日 報告 衛生・植民地主義と「帝国」秩序—東アジア・東南アジアの場合—

ゲスト・飯島 渉

論評 脇村孝平「植民地統治と公衆衛生—インドと—台湾」『思想』1997.8

籠谷直人

4月26日 報告 国民国家と帝國的支配—1年の回顧と今後の展望— 山本有造

5月10日 報告 国民帝国論の前提 山室信一  
論評 「帝国」論の視座について

—1997年末の『情況』、『大航海』、『思想』の論説、座談から 籠谷直人

5月24日 報告 帝国と言語—「言語の多元性」をめぐる— 安田敏朗

書評 北川勝彦・平田雅博編『帝国意識の解剖学』世界思想社 山本 正

6月14日 報告 帝国意識研究の方法と課題

ゲスト・木畑洋一

コメンテーター：山室信一

6月28日 報告 日本における「帝国意識」研究の課題 水野直樹

書評 濱下武志編『岩波講座世界歴史 20 アジアの近代：19世紀』岩波書店

秋田 茂

# 人 文 学 報

- 7月12日 報告 『近代中国と海関』をめぐる ゲスト・岡本隆司 班員 荒牧典俊 宇佐美齊 金 文京 小林博行  
報告 小寺廉吉の『経済的民族誌学』をめぐって 菊地 暁 武田時昌 東郷俊宏 森本淳生（以上所内）山極壽一（理学研究科）遊磨正秀（生態学研究センター）  
9月27日 講読：田中和夫著『大東亜旧英領地域の法律』1944年 要約担当 籠谷直人 加藤和人（J T生命誌研究館）後藤静夫（国立文楽劇場）廣瀬千紗子（同志社女子大学）深澤一幸（大阪大学）  
書評 『岩波講座世界歴史19 近代世界システムと人間の移動』岩波書店 5月8日 趣旨説明・『色道大鑑』紹介 横山 杉原 薫 5月22日 王維の詩における「空」 荒牧 『色道大鑑』の周辺 廣瀬  
10月25日 講読：東亜経済調査局『仏蘭西植民地法提要』1937年 要約担当 山室信一 6月5日 仙女たちの語る医学 武田 『色道大鑑』巻五 二十八品第一 無性品～第五 悔事品 廣瀬・金  
書評 指昭博編『「イギリス」であること：アイデンティティ探求の歴史』刀水書房 秋田 茂 6月12日 文学創造と悪戯ーランボー偽作事件を中心にー 宇佐美 『色道大鑑』巻五 二十八品第六 瓦智品～第七 暫偽品 小林  
11月8日 報告 帝国支配＝植民地統治と「同化主義」の構造 山本有造 6月26日 人間以前のコミュニケーション：身体 同調と制約をめぐる 山極 『色道大鑑』巻五 二十八品第八 頭名品～第九 誇威品 深澤  
12月13日 報告 帝国と関係史ー「非公式帝国」概念を中心にしてー 秋田 茂 7月3日 葛城一言主神社 見学会 解説：後藤 書評 桑原莞爾『イギリス関税改革運動の史的分析』九州大学出版会 9月4日 横山著「方言の力」合評 横山・全員 『色道大鑑』巻五 二十八品第十 去迷品 横山  
安定社会と言語 班長 横山 俊夫 9月11日 小林著「鳥は人語を発するか」合評 小林・全員 『色道大鑑』巻五 二十八品第十一 謙退品 遊磨  
人間社会の安定化と言語の変質とのかかわりの諸相を、生物群集の研究者とともに多面的に解明する。素材にはアジアやヨーロッパの宗教史、芸能史、文学史、科学史上の事例をえらぶ。この課題をかかげるのは現代の科学技術が個としての人間を萎縮させ、地球規模の閉塞社会をもたらしはじめたなかで、それをあかいい安定社会に変えうるのは言語ではないかとの想いからである。なお参考資料として、17世紀後半の日本の色道論を輪読している。 9月14日 「危機」のディスコースヴァレリーの場合 森本 『色道大鑑』巻五 二十八品第十二 説諺品～第十三 振勇品 後藤  
この研究は、話し言葉や名づけをめぐる試行的共同研究「言語力の諸相」（1997-98）や「新発見事物への名づけをめぐる学内共同のこころみ」（1998）の成果をふまえるとともに、京都ゼミナールハウス主催「京都国際セミナー／安定社会の総合研究」（1989-99）の蓄積を、さらに発展させることになるだろう。 12月11日 人形浄瑠璃・文楽の隠語・符牒について 後藤 『色道大鑑』巻五 二十八品第十四 催興品 山極  
12月18日 鄭孝胥氏の日本 深澤 『色道大鑑』巻五 二十八品第十五 頓行品 横山

## 日本の植民地支配－朝鮮と台湾－

班長 水野 直樹

日本の植民地支配の全体像を解明することをめざして、朝鮮と台湾における植民地政策の比較、日本の政治・経済・社会などとの関連に重点を置いて、研究を進めている。日本史・朝鮮史・台湾史などの研究者による共同研究として、研究の視点、資料の問題などに関して、情報・意見の交換を重ねている。

班員 籠谷直人 菊地 暁 高木博志 タカシ・フジタニ 安田敏朗 山室信一（以上所内）金 慶南（外国人共同研究者）伊藤之雄（法学研究科）永井 和（文学研究科）堀 和生（経済学研究科）青野正明（聖和大）浅井良純（大阪経済大非常勤）桂川光正（大阪産業大）河合和男（奈良産業大）河原林直人（大阪市立大・院）北波道子（関西大・院）金 英達（大阪市立大非常勤）呉 宏明（京都精華大）近藤正己（近畿大）杉原 達 富山一郎（以上大阪大）土井浩嗣（神戸大・院）藤永 壮（大阪産業大）朴 一（大阪市立大）朴 宣美（京大・院）松田利彦（国際日文研）松田吉郎（兵庫教育大）山田 敦（学術振興会特別研究員）李 卓（京大・研修員）

- 1月20日 植民地時代の釜山地域における都市形成と工業地区形成の特性 金慶南  
植民地神社の祭神の系譜－札幌神社・台湾神社・朝鮮神宮－ 高木  
2月3日 植民地支配の物的な遺産の意義に対する一つの評価－連合軍最高司令部（SCAP）の資料を中心として－

ゲスト・許粹烈

「植民地帝国日本」と「脱植民地化」

ゲスト・橋谷弘

- 2月17日 近代日本の君主制と朝鮮－王公族・朝鮮貴族をめぐる政治：1904～1932－

伊藤

植民地時期における朝鮮人日本留学生に関する資料 朴宣美

- 3月3日 日本植民地下の書房と書堂 呉  
日本の朝鮮統治下における「通婚」と“混血”－いわゆる「内鮮結婚」の法制・統計・政策について－ 金英達

- 4月21日 朝鮮・台湾における植民地支配の比較－『戦時期植民地統治資料』を手掛かりに－ 水野  
朝鮮警察発行の定期刊行物について－『警察彙報』誌を中心として－

松田

- 5月19日 戦前台湾の電源開発と工業化（1919年～1934年）－日月潭発電計画とその意義－ 北波

朝鮮総督訓示類文献について 水野

- 6月2日 東拓の農業経営 河合  
陸軍慰安所の設置と慰安婦募集に関する警察資料 永井

- 6月16日 1930年代朝鮮企業における重役兼任に関する研究 籠谷・金慶南

資料紹介・公文類聚－国立公文書館HPのデータベースの利用案内－ 土井

- 7月7日 植民地時代初期台湾の土地調査事業

山田

植民地における情報収集：台湾の図書館活動 河原林

- 9月22日 『国語』と植民地－帝国日本の言語編制と朝鮮－ 安田

台湾在住朝鮮人の風俗営業・覚え書き－従業者人口と管理制度の推移－ 藤永

- 10月6日 『大東亜共栄圏』の経済構造－国際分業の検討－ 堀

植民地期朝鮮の治安維持法統計資料について－「思想月報」「思想彙報」を中心に－ 李

- 10月20日 日本統治下の台湾における社会運動についての一考察－台湾農民組合をめぐる－ 宗田昌人（京大・院）

朝鮮総督府調査資料の紹介－村山智順による調査資料を中心に－ 青野

- 11月17日 海南島占領と台湾 近藤

日本所在植民地関係文献目録およびコレクションについて 水野

- 12月1日 併合前後の朝鮮人「民籍」と「名前」－「内地人」風姓名の禁止政策を中心に－ 水野

外国人キリスト教宣教師が見た植民地  
下朝鮮と台湾 呉

明治維新期の社会と情報 班長 佐々木 克

明治維新期は、おおまかに幕末の旧体制崩壊期と、明治の新国家建設期とに二分できる。しかし何れにしる、変革期であり動乱期である。権力は動揺し、社会は流動化し人が激しく動き、そして噂・流説などさまざまな情報が飛びかう。そこで、権力も組織も人も、情報を求め、必要とし、かつ自らも発信してゆく。幕府や藩当局は、それぞれ独自の情報蒐集システムを持っていた。しかし伝統のシステムだけでは、新たな状況に対応出来なくなる。また幕府は政治や外交に関しては、情報統制を基本としてきたが、それが崩れて行く。そうしたなかで、知識人や在村のエリート達が、独自のネットワークをもって、情報の蒐集・発信主体として登場し、権力の側は、彼らの存在を無視できなくなる。こうした状況は基本的には、明治期に引き継がれるが、新たな問題も登場する。それは明治政府が、権力が内包する根源的病として、情報を秘匿・隠匿しようとする基本的性格を維持しながら、一方で、政府は民衆に伝えなければならない情報を、如何に早くかつ広く伝達・徹底させるか、すなわち情報公開という重要な課題に直面するのであり、こうした状況のなかで、民衆自体も、新たな課題に就くことを迫られるのである。本研究は、以上のような実態をふまえて、明治維新という変革期における〈情報〉にかかわる諸問題を、総合的に検討してみようと意図しているものである。

班員 落合弘樹 高木博志 塚本 明（以上所内）  
青山忠正（仏教大）奥村 弘（神戸大）長志珠絵（神戸市外大）小股憲明（大阪女子大）勝部真人（広島大）岸本 覚（立命館大・非）小林丈弘（京都市歴史資料館）斎藤祐司（彦根城博物館）鈴木洋二（名古屋大）鈴木栄樹（京都薬大）谷山正道（天理大）原田敬一（仏教大）福井純子（立命館大）三澤 純（熊本大）母利美和（彦根城博物館）藪田 貫（関西大）山崎有恒（立命館大）黒田信二（広島大・院）笹部昌利（仏教大・院）谷川 譲（京大・院）

2月5日 陵墓の近代

高木博志

3月18日 羽賀祥二著『史蹟論』合評 原田敬一  
4月23日 榎本武揚の戊辰戦争 佐々木克  
5月14日 教導職と学校教育—大教院体制の挫折がもたらしたもの— 谷川 稜  
5月28日 星亨の英国皇帝への不敬呼称事件と独逸皇孫遊獵事件 小股憲明  
6月18日 三条実美の政治意識と運動—“尊攘激派”イメージ再考— 笹部昌利  
7月2日 招魂祭祭文考 羽賀祥二  
9月10日 幕末の軍事改革—萩藩軍事改革の再検討— 岸本 覚  
10月1日 将軍・天皇の死と伊勢神宮 塚本 明  
10月22日 征韓論政変後における大久保利通の体制構想 黒田信二  
11月12日 明治9年1月の国事犯一件 落合弘樹  
11月26日 「御維新」と民衆—「矢野騒動」を中心に 谷山正道  
12月10日 記憶と歴史 ゲスト・松浦 玲

## 西 洋 部

アヴァンギャルド芸術の研究 班長 宇佐美 齊

1997年から2001年にいたる4年間の予定で発足した共同研究班である。

20世紀初頭において芸術概念と表現理論とを大きく転換させた、いわゆるアヴァンギャルド芸術を今日的な視点から総合的に再検討することを主眼とする。その場合、文学・美術・音楽・演劇・映画など諸ジャンル相互間の関わり、科学技術の進展、また政治経済や社会の変動が及ぼした影響、そして思想的なコンテクストなどに留意しなければならないことはもちろんであるが、同時にこの運動においては世界的な並行現象ないしは波及効果が見られる点を十分に考慮して、西ヨーロッパのみを視野に収めるのではなく、日本・中国・ロシア・アメリカ・その他の諸国との比較対照の視点をも重視しなければならないだろう。なお時代区分としては、20世紀初頭から30年代までを取り扱う。研究会は原則として隔週に開催し、すでに3年近くにわたって口頭発表と討議とを積み重ねてきたが、最終年度となる2000年には論文執筆ととりかかり、2001年春には報告書

の刊行を予定している。

班員 井波陵一 大浦康介 森本淳生（以上所内）  
篠原資明 松島 征 三好郁朗（以上人間・環境学  
研究科）吉田 城（文学研究科）鈴木貞美（国際日  
文研）丹治恆次郎（関西学院大学）ビエール・ドゥ  
ヴォー（甲南女子大学）水田恭平（神戸大学）永田  
靖（大阪大学）禹 朋子（帝塚山学院大学）

- 1月11日 Quelques avant-gardes musicales  
—le silence?— アヴァンギャルド  
音楽をめぐる—あるいは「沈黙」に  
ついて— ドゥヴォー
- 2月20日 ロシア・アヴァンギャルド芸術の類型  
学—ネオプリミティヴィズム— 大石
- 3月8日 機械仕掛けのチャップリン—ロシア・  
アヴァンギャルドの演技論— 永田
- 3月15日 ロシア・バレエの衝撃—バクストとブ  
ルーストを中心に 吉田
- 4月19日 アヴァンギャルドの時代に—王国維の  
歴史研究— 井波
- 5月10日 「自伝性」の意味とかたち—Nadjaの  
場合— 禹
- 5月24日 近代の表裏—ヴァレリーとブルトン—  
森本
- 6月7日 偽作審問官ブルトン 宇佐美
- 6月21日 宣言のディスクール（2）—イエナ派  
とル・プログラマティック— 大浦
- 9月20日 シチュアシオニストと「アヴァンギャ  
ルド」 木下
- 10月4日 コンピュータ・グラフィックスの現在  
河原
- 10月18日 危機の言説・錯誤の言説 水田
- 11月8日 シュルレアリスムとウリボ 松島
- 11月22日 アンリ・マティスと空間の観念 丹治
- 12月13日 足穂と未来思想 篠原

# 空間と移動の社会史

班長 前川 和也

第2年目を迎えた本研究班では、前年度にひきつ  
づきヨーロッパ、東アジア、西アジアの前工業化社  
会を中心として、人、もの、情報の移動の実態、そ  
のような移動をひきおこした歴史状況、移動を規制  
するシステム、移動にともなう空間認識の変化など

の問題を議論してきた。今年度は具体的には、「ディ  
アスポラ」問題（17世紀オランダのユダヤ人社会な  
ど）、広域的な商業ネットワークの形成にともなう  
移動（中世の地中海貿易、スペイン・ポルトガルの  
世界制覇、オランダ・イギリスの東インド会社貿易、  
貿易のための近代的組織の形成、華僑・印僑の通商  
網）、人の移動と文化の伝播（啓蒙期の秘密結社、  
西欧への留学、芸能者の遍歴）、空間の認識と表象  
（古代メソポタミア、中世ヨーロッパの地理空間認  
識、啓蒙期フランスの旅行記、19世紀英国の旅行者  
と旅行記）、特定の区域内で移動する社会集団の特  
質（遍歴職人、巡回裁判、托鉢修道士、「宿営社会」）  
などがとりあげられた。

班員 小山 哲 阪上 孝 高田京比子 田中雅  
一 富永茂樹 横山俊夫（以上所内）南川高志 服  
部良久（以上文学研究科）川島昭夫（総合人間学部）  
阿河雄二郎（大阪外国語大）井上浩一 大黒俊二  
（以上大阪市大）江川 温 川北 稔（以上大阪大）  
川本正知（奈良産業大）合田昌史（甲南大）佐々  
木博光（大阪府大）渋谷 聡（島根大）谷井陽子  
（天理大）田中俊之（金沢大）河村貞枝 橋本伸也  
渡邊 伸（以上京都府大）三成美保（摂南大）山  
辺規子（奈良女子大）森 明子（国立民博）脇田晴  
子（滋賀県大）中村敦子（京大文・研修員）

- 1月12日 中世ヨーロッパとブラック・アフリカ  
江川
- 1月19日 世界周遊家と日本 横山
- 4月13日 1930年代の華僑通商網と日本  
籠谷直人（人文研日本部）
- 4月27日 遍歴する職人：ドイツ中世後期の社会  
田中俊
- 5月11日 16世紀中国の巡回裁判 谷井
- 5月25日 17世紀オランダ・ユダヤ人社会の盛衰：  
移住・再移住・通信網

桜田美津夫（就美女子大）

- 6月8日 啓蒙期ドイツの秘密結社：啓明団員ボー  
デのバリ旅行記から 三成
- 6月22日 中世の女性芸能者 脇田
- 6月29日 11世紀ビザンツ貴族の西遷 井上
- 7月6日 ヤーシの留学：ポーランド貴族が西欧  
で学んだこと 小山

9月14日	世界を山分けする：デマルカシオン	合田	れたさまざまな領域のテキストが、われわれの考察の対象となる。二年目にあたる本年は、主として
9月27日	メソポタミアにおける空間認識の拡大：アッカドのサルゴン王とナラム・シン王。同時代史料と後代の伝承	前川	1930年代に日本で書かれたテキストを中心に引き上げたが、同時にその欧米思想との交渉の動態にも注意を払いながら検討作業を進めている。
10月5日	近代イギリスの委託代理商ジョージ・フィリップス商会の営業：商業通信文書が形成する共有空間	川分圭子（京都府大）	班員 落合弘樹 菊地 暁 北垣 徹 小林博行 小牧幸代 高田京比子 瀧井一博 森本淳生 安田敏朗（以上所内）田辺明生（アジア・アフリカ地域研究科）岡 真理（大阪女子大）崎山政毅（神戸市外大）田崎英明（立命館大）辰巳伸知（仏教大）常田夕美子（日本学術振興会）長原 豊（法政大）細見和之（大阪府立大）水嶋一憲 盛田良治（以上大阪産業大）
10月19日	徴利から利子へ：monte di piet� 設立運動	大黒	
10月26日	身分別救済の虚実：ロッテルダム市孤児救済と東インド	大西吉之（富山大）	1月19日 中井正一「委員会の論理」 全員
11月9日	中世地中海における人の移動 在キプロス・ヴェネツィア公証人の史料より	高田	2月9日 中井正一の美学をめぐる 全員
11月16日	シャルダン兄弟のイギリス・インド間貿易（1687～1709年）	羽田 正（東大東洋文化研究所）	3月16日 三木清『哲学入門』を読む 森本
11月30日	「植物採集者」の旅	川島	3月26日 商品世界と資本の形態的記憶 長原
12月7日	啓蒙と旅行記(2)：ヴォルネーを読む	阪上	4月13日 和辻哲郎『風土』(1) 安田
12月14日	19世紀イギリスのウーマン・トラヴェラー	河村	4月24日 研究会の方向をめぐる 上野
			5月11日 和辻哲郎『風土』(2) 森本
			5月15日 30年代日本における科学論 小林
			6月8日 田辺元の〈種の論理〉 上野
			6月20日 フランクフルト学派とマンハイム 辰巳
			7月17日 史的システムとしての柳田民俗学 菊地
テキストの政治学—危機の時代における理論と批評—			7月27日 シュミットの議会主義批判 上野・瀧井
	班長 上野 成利		9月7日 シュペングラーの歴史哲学 (1) 高田他
20世紀の前半期は、近代的な人間諸科学の「危機」が表面化し、その克服をめぐる言説がさまざまな領域で浮上していった時代であった。しかしこれらの言説には、近代みずからが自己自身のありようを批判するという屈折した自己意識が、きわめて先鋭的なかたちで表現されているといってもよいだろう。こうしたテキストのねじれを解きほぐしながら、それらの言説に刻印された近代的な思考の回路を明らかにし、それが近代社会のありようとどのように絡み合っているのかを検証すること—これが本研究の基本的なねらいである。具体的には、哲学、社会理論から科学論、さらには文学・芸術批評にいたるまで、当時「危機」をめぐる日本と欧米で書か		9月18日 南原繁と田辺元の共同体論 上野	
			美学イデオロギーの批判のために 田崎
			10月5日 シュペングラーの歴史哲学 (2) 瀧井他
			10月16日 小林秀雄の文学主義をめぐる 森本
			11月9日 柳宗悦の〈民芸〉論をめぐる 小林他
			11月13日 加藤正と「理論の党派性」論争 崎山
			12月23日 時枝誠記〈言語過程説〉の再検討 安田

## サーマヴェーダ基礎資料集成 班長 藤井 正人

ヴェーダ文献の中で祭式歌詠を内容とするサーマヴェーダの文字資料を統一的に整理し編集することによって、サーマヴェーダの基礎資料を集成することがこの共同研究の目的である。未出版のジャイミニヤ派サーマヴェーダの各種写本を中心に研究を進めるが、他派の伝承をも対象に含める。文献学、祭式学、音楽学をそれぞれの専門とする研究者の国際的な協力のもとに行なうサーマヴェーダの総合研究の第一段階として、サーマヴェーダ全体の総索引の出版を当面の目標としている。研究形態は、各班員が資料の担当を分けて行なう分業と、班員間の作業の調整と内容の検討を行なうミーティングの二つからなる。この研究班はサーマヴェーダに関する専門知識を次世代に伝えることも意図しているので、若い研究者を班員に加えている。1年目の研究成果の一部を、第2回国際ヴェーダ学ワークショップにおいてバルボラが報告した。

班員 井狩彌介 アスコ・バルボラ（以上所内）  
永ノ尾信悟（東京大）ウェイン・ホワード 梶原三恵子（日本学術振興会）野田智子 村川晶子（以上京大・院）

## ボルノグラフィー研究

## ーエロスとその表象をめぐるー

班長 大浦 康介

本研究は、文学テキスト、絵画、写真、映画、ビデオなど、さまざまな媒体をつかった性表象の分析をつうじて、エロスの内実とその表象可能性や、それらの表象を横断する〈主体〉、〈社会〉、〈民族〉、〈国家〉、〈性差〉、〈宗教〉、〈倫理〉などの問題を考えることを目的とする。近代ヨーロッパにおける「ボルノグラフィーの発明」をひとつの目安として、日本近現代の性表象・性文化や中国、アメリカの事例などを検討しつつ、この分野でのあらたな理論的地平を模索したい。期間はさしあたり3年間、原則として月2回（隔週水曜日）の集まりを予定している。

班員 北垣 徹 金 文京 田中雅一 東郷俊宏（以上所内）小西嘉幸（大阪市大）小山俊輔（奈良女子大）関谷一彦（関西学院大）棚橋 訓（慶應義

塾大）早川聞多（国際日文研）古川 誠（関西大）山路龍天（同志社大）山本和明（相愛女子短大）片平 幸 渡辺綾香（以上総研大・院）川村清志（学振特別研究員）北原 恵（東大・院）下野理恵（大阪国際女子大・非）園田浩二（関西学院大・院）山口 威（京大人環・院）

4月21日 ストリップティーズの修辞学 大浦

5月19日 Money Shot の光と影 田中

6月2日 読書会 Lynn Hunt (ed.) The Invention of Pornography

小野原・下野・山口

6月16日 中国における性愛文学（近代以前）金

7月7日 Japanese Pornographic Culture in Hong Kong

Dixon Wong（ゲスト・香港大学）

7月17日 スタディー・ツアー：リパティ大阪・飛田遊郭

案内 原田敬一（ゲスト・佛教大学）

7月21日 江戸時代における性愛表現 山本

9月22日 やおいとセクシュアリティ：女性が描く男性同性愛

藤本純子（阪大・院）

10月6日 「同性愛」の誕生 古川

10月20日 援助交際における性の商品化の様相：インタビュー調査の事例から 園田

11月17日 52ページの宇宙——「裏本」史に関する基礎的研究（1） 棚橋

12月1日 『セクシュアリティの歴史社会学』を書き終えて

赤川学（ゲスト・岡山大学）

12月15日 香港レポート 大浦・田中

## 1789年人権宣言成立過程の研究 班長 富永 茂樹

この共同研究は「人間と市民の権利の宣言」の成立過程を詳細にたどりつつ、そこに現れた市民の概念を検討することを目的としている。そのための手がかりとして、1789年に議会の内外で発表された発表された数多くの人権宣言草案のうち著者や内容の点で重要と判断されるテキストを選定し、その精確な翻訳を作成する作業をつづけ、さらに最終年度に



あたる今年度の後半には1789年7-8月の国民議会での宣言をめぐる議論、とりわけ8月20日から26日にかけて宣言の個々の条文が成立するさいの討論過程にも詳しい検討を加えた。これらのテキストの読解から明らかになったのは、近代市民社会の誕生の瞬間に、市民の権利と義務、所有、社会的結合などさまざまな問題をめぐって動員され、衝突しあいさもなくばすれ違う言説と観念のダイナミズムである。予定したテキストのほぼすべての翻訳が完了したので、今後はこれらの訳文を整理したのち、しかるべきかたちで刊行することをめざしている。

班員 北垣 徹 阪上 孝（以上所内）前川真行（大阪女子大）白鳥義彦（嵯山女学園大）岡崎宏樹（京都学園大）宇城輝人（京大研修員）佐藤吉幸（京大経済・院）

1月8日	トゥーレ案	白鳥／岡崎
1月29日	トゥーレ案	岡崎／佐藤
2月5日	パレ＝ロワイヤルの草案	岡崎／白鳥
4月16日	革命と人間の権利をめぐる	全員
4月30日	ミラボー案	佐藤／宇城
5月7日	デュボン・ド・ヌムール案	富永／前川
5月21日	デュボン・ド・ヌムール案	富永／前川
6月4日	ラ・ファイエット案	宇城／佐藤
6月18日	ピゾン・ド・ギャラン案	岡崎／佐藤
7月2日	ピゾン・ド・ギャラン案	岡崎／佐藤
7月23日	ピゾン・ド・ギャラン案	岡崎／佐藤
9月10日	8月20-21日討議	宇城／佐藤
9月17日	8月21-22日討議	宇城／佐藤
10月1日	8月22日討議	宇城／佐藤
10月15日	8月23日討議	宇城／佐藤
10月22日	8月23日討議	宇城／佐藤
11月5日	8月23日討議	佐藤／宇城
12月3日	8月23日討議	佐藤／宇城
12月17日	8月24日討議	富永／前川
12月24日	8月24日・26日討議	白鳥／前川

インド文化史の諸問題ーテキスト伝承と写本ー

班長 井狩 彌介

南アジアのような多言語社会においてリンガフラ

ンカ（共通語）としてのサンスクリットのテキスト伝承を扱う場合、伝承の過程において生じる時間的要因（言語体系の歴史的変遷）と地域的要因（各地域における地方語音韻の影響と写本文字の変容）とによるテキスト変容の可能性はつねに重要な検討課題となる。本研究では、ヴェーダ文献の伝承、特に南インド・ケララ地域の写本と口頭伝承資料に焦点をあて、ヴェーダ文献伝承の諸特徴を分析しつつテキストの批判刊本を作成するために必要な前提知識を総括する。

班員 荒牧典俊 藤井正人 アスコ・パルボラ（以上所内）徳永宗雄（文学研究科）村上昌孝（非）山下 勤（京都学院大）増田良介（大阪外大・非）矢野道雄（京都産大）梶原三恵子（日本学術振興会）野田智子 村川章子（以上京大文・院）杉田瑞枝（京大研修員）

進化論を読む

班長 阪上 孝

ダーウィン「種の起源」の刊行以来、〈進化論〉は人文・社会科学の領域にまで大きな影響を与え、近代科学全般にパラダイム・シフトをもたらした。〈進化論〉を手がかりにすることで、近現代の知識と社会にふくまれる問題性を解明することも可能となろう。こうして本研究班は〈進化論〉をめぐる基本的なテキストを読むことを主眼に活動を進めてきた。ダーウィン、ラマルク、マルサス、スペンサー、ヘッケル、ハクスリーなどの主要な文献についてはすでに検討を終え、班員のあいだである程度の知見を共有することができた。そこで本研究班の一年間の活動を締めくくるにあたって、最後に〈進化論〉の科学史的な位置について検討を加えた。次年度には、これまでの作業を足がかりに「進化論と社会」を主題とする本格的な共同研究を始めることを予定している。

班員 上野成利 北垣 徹 小林博行 小山 哲 武田時昌 田中雅一 富永茂樹 山室信一（以上所内）伊藤和行（文学研究科）大澤真幸（人間・環境学研究科）大東祥孝（留学生センター）八木紀一郎（経済学研究科）宇城輝人（京大研修員）川越 修（同志社大）小林清一（滋賀県立大）斎藤 光（京都精華大）佐倉 統（横浜国大）白鳥義彦（名古屋

大) 姫野順一(長崎大) 前川真行(大阪女子大) 光  
永雅明(神戸市外大) 横山輝雄(南山大)

1月22日 進化論と周辺諸分野の対話 佐倉

3月5日 進化論とグランドセオリー 横山

「進化論」と社会 班長 阪上 孝

〈進化論〉の影響がたんに自然科学の領域にとどまるものではないことは、「生存闘争」や「適者生存」といった用語が短期間のうちに多くの社会に普及していった事実をみれば明らかであろう。しかし進化論的な思考様式は、そうした表層的な次元だけでなく、19世紀後半以降の社会と学問の枠組みそのものに深く根を下ろしている。〈進化論〉がさまざまな社会と学問分野でどのように理解され、受容され、批判されていったのかを比較検討することで、近現代の社会・文化・学問のありかたは、その問題性もふくめて明らかになるにちがいない。こうして本研究班では、前年度の「進化論を読む」班での到達点をふまえつつ、〈進化論〉受容の社会的・文化的文脈を探るべく、〈進化論〉の影響の諸様態について広く検討することにした。現在、哲学・精神医学・社会学・優生学といった学問分野ごとの受容を縦軸に、日本・アメリカ・ヨーロッパといった地域ごとの受容様態を横軸に据えながら、〈進化論〉の受容と批判のありかたについて討議を重ねている。また、それと並行して、共通の問題意識を高め、論点を明確化するために、〈進化論〉にまつわるトピックを各自が持ち寄る機会をもうけた。次年度もこれまでの研究報告・討議を継続しながら、「進化論と社会」をめぐる問題点をさらに探ってゆく予定である。

班員 上野成利 北垣 徹 小林博行 小山 哲  
竹沢泰子 武田時昌 田中雅一 富永茂樹 山室信一(以上所内) 大澤真幸(人間・環境学研究科) 大東祥孝(留学生センター) 八木紀一郎(経済学研究科) 宇城輝人(京大研修員) 小川眞里子(三重大) 川越 修(同志社大) 小林清一(滋賀県立大) 斎藤光(京都精華大) 佐倉 統(横浜国大) 白鳥義彦(椋山女学園大) 姫野順一(長崎大) 前川真行(大阪女子大) 光永雅明(神戸市外大) 横山輝雄(南山大)

4月23日 共同研究を始めるにあたって 阪上

5月14日 明治社会と進化論 山室

5月28日 アメリカにおける社会進化論

小林清一

6月11日 ベルクソンと進化論 白鳥

6月25日 性選択と社会 斎藤

7月16日 ダーウィン『人間と動物における感情の表現について』をめぐって 前川

9月24日 『ビーグル号航海記』を読む 富永

10月8日 モレルの『変質概論』 大東

10月29日 進化論形成の基盤 小川

11月12日 19世紀後半フランスにおけるダーウィニズムの(非)受容 北垣

11月26日 ドイツにおけるダーウィニズム

小林博行

12月10日 退行と回帰のあいだ 宇城

## 東 方 部

唐宋美術の研究 班長 曾布川 寛

1995年4月から5ヶ年計画で始まった本研究は、隋・唐・五代・北宋の美術全般についてより精確な理解を目指す。特に繁栄の極に達した盛唐美術を中心に、初唐からそこに至った過程、またそこから一転して写実的な山水・花鳥画に代表される宋代美術を生むに至った背景などを探る。具体的方法としては出土・伝世の文物、石窟寺院の仏教美術、画論・書論の芸術論を三本の柱として、発表と会読を交えて進めていく。本年の芸術論の会読は黄休復『益州名画録』(宇佐美文理担当)、黄伯思『東觀余論』(下野健児担当)を取り上げた。

訳経僧伝研究 班長 桑山 正進

訳経僧とは、インドや中央アジアから中国にやってきて、經典漢訳に参画した仏教僧である。かれらに関する情報は『高僧伝』『統高僧伝』『宋高僧伝』などに編纂されている。これらの伝記を班員の専門分野である歴史、言語、宗教、美術など多角視点をもって読解検討し、4世紀-8世紀の中央アジアから南アジアにわたる地域の歴史、文化、その他おおくの情報を引き出すことを目的とする。あわせて拠

るべき現代語訳を作成する。研究会は1996年4月から2001年3月まで隔週の月曜日（2時－5時）に文献センター会議室で開催。

#### 16・17世紀アジアにおける言語接触

班長 高田 時雄

本研究班ではポルトガル勢力のアジア東漸を契機として起こった言語接触の諸相を、ジェズイットを初めとするカトリック諸会派の資料を中心として解明することを目指す。現在はマニラのドミニコ會が1593年に刊行したタガログ語版ドチリナを中心とし、同じくマニラ刊の中国語版、さらに日本キリシタン版、ポルトガル語版、スペイン語版などを参照しつつ、会読を行いつつある。

#### 中国技術の伝統

班長 田中 淡

「中国技術史の研究」に引き続いて、1996年から5年間の計画で、中国技術の伝統と特質について検討を加えてゆく。基本的には生活科学技術を中心とするが、しかし前研究班の過程で靡げながらみてきた中国技術史における研究課題は、特定の時代、分野に偏重しない。一般的には、技術と科学の相関、技術者と社会、生活科学の特質、少数民族の技術、等々の主題に関わるであろうし、個別的には、農業、医学、土木建築、紡績、数学、天文学、化学、その他の領域に広がるであろう。会読のテキストとしては、引き続いて元・王楙の『農書』農器図譜の訳注作成をすすめてゆく。並行して、技術史の諸分野にわたる班員の研究発表を随時おこなう。

#### 中国の礼制と礼学

班長 小南 一郎

本研究班では、前年に引き続き、統漢書礼儀志の帝王の年中行事に関する部分を、劉昭注を含めて読み、訳注を付けた。統漢書のこの部分は、後漢書に収められて、正史の一部を成しているのであるが、テキストに乱れが多く、読みにくい箇所が続出する。こうしたテキストであればこそ、会読の対象とするに相応しいと言えるのかも知れない。

#### 唐代宗教の研究

班長 吉川 忠夫

論文集を完成させるため、1月から7月にかけて、

下記の研究報告を行った。9月以降は、『北山録』の会読を再開し、巻六・巻七の訳注稿の作成を、古勝隆一・坂内栄夫・深澤一幸・松村巧・礪波護が担当した。

#### 周氏冥通記研究

班長 麥谷 邦夫

本研究班は、吉川忠夫教授を班長とする「六朝道教の研究」研究班による『真誥』訳注作業の終了を承け、同じく梁陶弘景の編纂になる『周氏冥通記』四巻の訳注作成を主目的として、1998年度より2年間の予定で活動を開始した。本年度は第四巻まで読了し、現在訳注原稿の整理を進めている。なお、本研究班は予定どおり本年度をもって終了する。

#### 文献と情報

班長 勝村 哲也

研究会の構成は、前年どおり、文献班と情報班に分かれる。本年は最終年度なので、研究報告の取りまとめを行うことになり、情報班は、安永尚志、柴山守、桶谷猪久夫、星野聡の四氏と勝村が論集の編集にあたり、文献班は、論集作成を目指して報告を行った。なお、建仁寺兩足院の調査は、慶応義塾大斯道文庫、筑波大岩崎宏之重点領域研究「沖繩の歴史情報」、勝村哲也基盤研究「朝鮮渡来漢籍の研究」との共同事業として所期の目的を終了した。今後は京都五山の本格的な調査をまって、完備した目録が編纂されることを望みたい。

#### 辺境出土木簡の研究

班長 富谷 至

3年計画を1年延長し、本年度で敦煌馬圈湾出土の木簡をすべて会読した。現在、注釈原稿の整理を行っている。また、これと並行して班員各位の研究発表を行い、相互の批判・検討を通して、簡牘資料に対する古文書学的・歴史学的な理解を深めあった。こちらも現在、論文集の刊行を準備中である。なお、2月19日には早稲田大学の工藤元男教授をお招きし、「楚簡研究とデータベース」と題して講演をうかがった。

#### 中国共産主義と日本－思想・運動・戦争－

班長 狭間 直樹

現在の中国が中国共産党の支配する「共産主義」

の国家としての中華人民共和国であることは、明白な事実である。中国近代史の一つの帰結としてこの中華人民共和国の誕生にいたる経過を振り返るには、二十世紀において独特の歴史現象として出現した世界の共産主義との関連でとらえねばならぬことは言うまでもないとして、そのさい東アジアにおける日本（朝鮮を含め）との密接なかかわりの探求がとりわけ必要とされるのである。本研究は、中国共産主義のありようを日本との関連において、思想・運動・戦争の諸側面から迫ろうとするものである。

#### 中国近代化の動態構造

班長 森 時彦

近代における中国文明と西洋文明の接触が中国の社会構造にいかなる変動をもたらしたかという問題を、政治・経済・文化などさまざまな専門分野から多角的に考察することが、このプロジェクトの課題である。本年度は、都市と農村の関係という先行の研究班のテーマを受けて、都市や農村の問題に焦点を当てた報告が多かった。中国固有の都市農村構造のなかで近代化が如何に進行し、これを変容させて行ったか、そのプロセスの解明が一つの軸になっている。

#### 客 員 部 門

##### 植民地主義と人類学

班長 山路 勝彦

人類学とその周辺諸科学の発展は、西欧による非西欧地域への政治・経済的進出と密接に結びついてきた。しかし、それは単純に人類学が植民地支配の道具であった、ということの意味しているのではない。また日本と東アジアを中心とする、植民地支配も多くの複雑な問題を含んでいる。こうした問いかけに答えるために当研究会が組織された。3年目は最終年度ということもあり、研究成果の具体的な計画を前提に議論を進めた。

班員 菊池 暁 小牧幸代 田中雅一 竹沢泰子 水野直樹 安田敏朗 山室信一（以上所内）田辺明生（AA研究科）松田素二（文学研究科）李 仁子（民博COE）上杉妙子（民族学振興会）荻野昌弘（関西学院大）岡田浩樹（甲子園大）春日直樹（大阪大）金谷美和（人文研研修員）川村清志（学振・特別研究員）窪田幸子（広島大）栗本英世（民博）

小林致広（神戸市外大）常田夕美子（学振・特別研究員）富山一郎（大阪大）中谷純江（学振・特別研究員）福浦厚子（滋賀大）細谷広美（京都文教大）元木淳子（法政大）森木和美（薫英女子大・非）脇村孝平（大阪市大）池亀 彩 石井美保 岩谷彩子（以上京大・人環・院）

1月18日 ポリネシア・クック諸島における土地問題の淵源：歴史的省察

棚橋 訓（慶応大）

近代的「言語」の構築をめぐる：小倉進平と朝鮮語方言研究 安田敏朗

2月1日 語るのは誰か？：カリクスト・ベヤラの『太陽に灼かれて』をめぐる

元木淳子

生活世界の創造と実践：韓国・済州島の生活誌から 伊知地紀子

2月15日 英国陸軍グルカ兵のダサイン：二元的忠誠と集合的アイデンティティの自己表象 上杉妙子

パキスタン周縁部における自律性の獲得：イスマール派の開発戦略

子島 進（民博）

3月15日 歴史表象と植民地主義：人類学者・伊能嘉矩の『台湾史』記述をめぐる

松田京子（大阪大）

植民地と人類学：蘭領東インドにおける民族学、慣習法研究、古典学

宮崎恒二（東京外大）

コメンテータ：ティモシー・ツァ（シンガポール大）

4月19日 合評会 春日直樹編『オセアニア・オリエンタリズム』（世界思想社）

コメンテータ：栗本英世

清水昭俊（民博）

田辺明生

5月17日 近代化におけるジェンダー概念とミッシェンの役割 窪田幸子

植民地支配が生み出す出稼ぎ移動民の擬似村共同体 李 仁子

6月14日 「民衆的芸」という他者表象：植民地状況下の中国北部における民芸運動

金谷美和

成果刊行についての話し合い

山路他全員

## Ⅱ 個人研究

### 日 本 部

6月28日 植民地支配と民族内関係、民族間関係  
の変容：エチオピア帝国、イギリスと

アニュー人

栗本英世

一九世紀における明治維新

佐々木 克

過剰性としてのムラージュ：パリ・イ  
ンドシナ美術館と遺跡保存 池亀 彩

「日本植民地帝国」の経済史的研究

山本 有造

前近代日本の文明史的研究

横山 俊夫

7月5日 「内鮮結婚」にみる植民地主義と家父  
長制：民族と性差 森木和美

近代東アジアにおける日本の法と政治

山室 信一

近代朝鮮の政治と社会

水野 直樹

応用人類学の系譜：ローズ・リヴィン  
グストン研究所 田中雅一

戦前期日本の工業化と華僑ネットワーク

籠谷 直人

近代天皇制の文化史的研究

高木 博志

10月4日 英国陸軍グルカ旅団の宗教政策

土族の研究

落合 弘樹

上杉妙子

ドイツ国家学と近代日本

瀧井 一博

今日における植民地主義の記憶と再生  
産：シンガポールにおける「神聖」な

近代日本の言語政策

安田 敏朗

空間の利用をめぐる 福浦厚子

江戸時代天文暦学の文化史的研究

小林 博行

近代日本民俗誌システムの研究

菊池 暁

10月18日 合評会 栗本・井野瀬編『植民地経験：  
人類学と歴史学からのアプローチ』

(人文書院) コメントータ：

### 西 洋 部

秋田茂 (大阪外大)・伊地知紀子・

知識と社会制度

阪上 孝

窪田幸子・清水昭俊 (民博)・

シュメール行政・経済文書の研究

前川 和也

和崎春日 (名大)

古代インド・ヴェーダ祭式の構造と歴史的展開の研

11月1日 「民俗」を紡ぐ者たち：奥能登のあえ  
のこと1934-1999 菊池 暁

研究

井狩 彌介

移住者たちの「内鮮結婚」 森木和美

フランスの詩学

宇佐美 齊

11月15日 博物館と暴力：民族の展示をめぐる

フランス革命と近代的主体の成立

富永 茂樹

荻野昌弘

南アジアの宗教と社会

田中 雅一

ジェンダーとミッション：オーストラ  
リアにおける植民地経験 窪田幸子

文学理論の研究  
後期ヴェーダ文献の成立史研究－ブラーフマナから  
ウパニシャッドへー

大浦 康介

11月29日 植民地化と生活世界の可変性：韓国・  
済州島の一海村の事例から

初期近代ポーランドの政治文化

藤井 正人

伊地知紀子

人種・エスニシティ論

小山 哲

朝鮮植民地化直後の差異化政策：「内  
地人ニ紛ハシキ姓名」の禁止をめぐる

フランクフルト学派の政治思想

竹沢 泰子

て 水野直樹

中世イタリアの「家」

上野 成利

12月6日 植民地と「パイリンガリズム」：安藤  
正次と台湾 安田敏朗

共和国の法と道徳－フランス第三共和政期における

共和思想と新カント派－

北垣 徹

植民地主義を書く：法・暴力・危機

ポール・ヴァレリーと二〇世紀フランスの思想

森本 淳生

富山一郎

南アジア・ムスリム社会の社会構造

小牧 幸代

## 東 方 部

六朝隋唐精神史 吉川 忠夫  
中国近代社会思想研究 狹間 直樹  
南アジア亜大陸北西地方の歴史考古学研究

中国古代の伝承文化研究 栗山 正進  
原始仏教起源論 小南 一郎  
中国美術の様式と意味 荒牧 典俊  
中国建築の様式・技術・空間 曾布川 寛  
近代中国の綿紡織業 田中 淡  
道教思想研究 森 時彦  
敦煌写本の言語史的研究 麥谷 邦夫  
新漢字コード系の構築 高田 時雄  
中国古代中世の法制 勝村 哲也  
先秦時代の金文 富谷 至  
中国の小説、演劇及び講唱文学の演変 浅原 達郎  
清代の文化と社会 金 文京  
古代中国の考古学研究 井波 陵一  
中国科学の基礎理論 岡村 秀典  
近世中国の財政と社会 武田 時昌  
川西走廊の漢藏諸語の記述言語学的研究 岩井 茂樹

中国中世學術史の研究 池田 巧  
中国小学史 木島 史雄  
中国仏教美術の研究 森賀 一恵  
前近代朝鮮の政治制度と社会制度 稲本 泰生  
ムガル朝時代の歴史叙述の研究 矢木 毅  
中国近代の社会・文化構造 眞下 裕之  
中国隋唐期における疾病認識 高嶋 航  
—『諸病原候論』を軸に— 東郷 俊宏  
魏晋南北朝時代の注釈学 古勝 隆一  
中国近世の国家支配の研究 古松 崇志

漢元年の惑星集合 浅原 達郎  
10日 臨床医学における時間の知—中国医学の窓  
から— 東郷 俊宏  
創造のとき・進化のとき—ダーウィンを中国  
心に— 阪上 孝

## 開所70周年記念公開講演会

1999年11月18日 於 本館大会議室  
中国近代における帝国主義と国民国家 狹間 直樹  
西学の伝来と明清時代の実学思想 杜 石然  
時間解釈と日本の影響  
—中国近代における過去・現在・未来の概念—  
マリアンヌ・パスチド-ブルギエール

## 研究成果の刊行

## I 紀 要

## 人文学報 第82号

戦前期日本人商社によるインド棉花の奥地買付活動—  
東洋棉花ボンベイ支店を事例にして—

籠谷 直人  
国語演習会という饗宴—皇民化政策下の台湾と教育  
所の子どもたち— 山路 勝彦  
日本の古星図と東アジアの天文学 宮島 一彦  
彙報（1998年1月～1998年12月）

## 東方学報 第71冊

楚辞天問篇の整理 小南 一郎  
汲冢書発見前後 吉川 忠夫  
『經典釈文』の著述構想とその変容の構図—〈書物  
の情報表示形式の適正化〉の視点から—

木島 史雄

中国共産党在革命時期三次左傾錯誤的比較研究

金 冲 及

試解清嘉慶年間—張徽州地契—兼論明清佃権の產生  
及典売— 周 紹 泉

甲骨文に反映的農業礼俗 宋 鎮 豪  
『真誥』訳注稿（四） 「六朝道教の研究」研究班  
彙報（1998年1月～1998年12月）

## 事 業 概 況

## 夏期公開講座

1999年7月 於 本館大会議室  
—時のデザイナー—  
9日 明治維新と古代文化の復興 高木 博志

ZINBUN (欧文紀要) No.33

Yasuke IKARI, A Survey of the New Manuscripts of the Vādhūa School—MSS. of K<sub>1</sub> and K<sub>4</sub>—

Timothy Y. TSU, Between Superstition and Morality—Japanese Views of Taiwanese Religion in the Colonial Period, 1895—1945—

Pierre BAYARD, Comment avoir des idées neuves?

Aya IKEGAME, Moulage ou reconstitution du réel—Louis Delaporte et le Musée indochinois de Paris—

Sumie NAKATANI, Agrarian Relations in a Rajasthan Village

Yumiko TOKITA-TANABE, Structure, process and memory—Continuity and reproduction of Japanese household organisation (*ie*)—

Teruhito USHIRO, Sur la théorie althussérienne de l'idéologie

II 研究報告その他

所報人文 第45号

1999年3月31日刊

所報人文 第46号 創立70周年記念

1999年11月18日刊

東洋学文献類目 1996年度

附属東洋学文献センター編

1999年2月26日刊

東洋学文献センター叢刊第八冊

京都大学人文科学研究所蔵中江丑吉文庫目録

山室信一編

1999年3月25日刊

所 員 動 静

- ・谷井陽子(東方部)助手は、辞任の上、(3月31日付)天理大学講師に就任。
- ・濱田麻矢(東方部)助手は、神戸大学文学部講師に昇任(4月1日付)。
- ・山本有造(日本部)教授を、当研究所長及び附属東洋学文献センター長に併任(4月1日～8月31日)。
- ・山路勝彦関西学院大学教授は、併任教授(比較文化研究部門、4月1日～2000年3月31日)。
- ・塚本 明三重大学人文学部助教授は、併任助教授(比較文化研究部門、4月1日～2000年3月31日)。
- ・竹沢泰子筑波大学助教授は、当研究所助教授(西洋部)に転任(4月1日付)。
- ・池田 巧立教大学助教授を当研究所助教授(東方部)に採用(4月1日付)。
- ・菊地 暁氏を助手(日本部)に採用(4月1日付)。
- ・稲本泰生(東方部)助手は、奈良国立博物館学芸課に転任(5月1日付)。
- ・古松崇志氏を助手(東方部)に採用(5月16日付)。
- ・栗山正進(東方部)教授を、当研究所長及び附属東洋学文献センター長に併任(11月1日～2001年10月31日)。
- ・勝村哲也教授(附属東洋学文献センター)は、文部省科学研究費補助金により、平成11年1月2日大阪発、タマサート大学に於いて日・タイ間の通信回線利用状況の調査ならびに漢字の国際的流通に関する協議を行い、1月6日帰国。
- ・勝村哲也教授(附属東洋学文献センター)は、文部省科学研究費補助金により、1月16日大阪発、中央研究院に於いて漢字の国際的利用に関する協議を行い、1月20日帰国。
- ・高田時雄教授(東方部)は、平成10年12月13日大阪発、高等研究学院に於いて敦煌の言語生活に関する研究及び講演を行い、1月21日帰国。
- ・小牧幸代助手(西洋部)は、委任経理金により、平成10年12月24日大阪発、ジャマーアテ・イスラミー組織本部・支部に於いて大衆的イスラーム運動の動向研究および資料収集を行い、2月8日帰

- 国。
- ・真下裕之助手（東方部）は、1月31日大阪発、ラームブル・ラザー図書館に於いてペルシア語写本調査、ムンシラームマノハルラルに於いてインドイスラム史に関する資料収集を行い、2月15日帰国。
  - ・金 文京助教授（東方部）は、文部省科学研究費補助金により、2月22日大阪発、ソウル大学中国文学科に於いて孝子説話研究についてのレビューを受け、2月15日帰国。
  - ・岡村秀典助教授（東方部）は、文部省科学研究費補助金により、3月4日大阪発、河南省文物考古研究所、焦作市文物工作隊に於いて府城遺跡の発掘調査を行い、3月18日帰国。
  - ・勝村哲也教授（附属東洋学文献センター）は、文部省科学研究費補助金により、3月9日成田発、ハーバード大学、UCバークレイ校に於いて漢字の国際的利用に関する国際会議に出席し、中国古籍・中国古地図史料の調査を行い、3月18日帰国。
  - ・東郷俊宏助手（東方部）は、3月14日大阪発、北京中医薬大学、中医研究院に於いて中国金元期医学書、本草書に関する研究資料収集、崑崙飯店に於いて老中医臨床技術の調査を行い、3月21日帰国。
  - ・勝村哲也教授（附属東洋学文献センター）は、3月28日大阪発、中央研究院歴史語言研究所に於いてデータ交換について打合せならびにデータの通信実験を行い、3月30日帰国。
  - ・岡村秀典助教授（東方部）は、文部省科学研究費補助金により、4月4日大阪発、焦作市文物隊に於いて府城遺跡の調査、中国社会科学院考古研究所に於いて調査結果の検討を行い、4月18日帰国。
  - ・高田京比子助手（西洋部）は、4月22日大阪発、ヴェネツィア市内に於いて中世ヴェネツィア及びヴェネツィアの東地中海植民地に関する史料調査及び意見交換、クレタ島に於いて中世ヴェネツィアの東地中海植民地（クレタ島）に関する資料調査を行い、5月8日帰国。
  - ・栞山正進教授（東方部）は、5月7日大阪発、マクマスタ大学に於いてガンダーラ仏教研究国際集會に出席し、5月14日帰国。
  - ・岡村秀典助教授（東方部）は、文部省科学研究費補助金により、5月5日大阪発、焦作市文物隊に於いて府城遺跡の調査、河南省文物考古研究所に於いて調査結果の検討を行い、5月16日帰国。
  - ・籠谷直人助教授（日本部）は、5月31日大阪発、中央研究院近代史研究所に於いて学術講演会参加及び発表、中央図書館台湾分館に於いて資料調査を行い、6月2日帰国。
  - ・勝村哲也教授（附属東洋学文献センター）は、6月13日大阪発、中央研究院に於いて漢籍電子文献協調委員会に出席し、6月17日帰国。
  - ・古勝隆一助手（東方部）は、6月13日大阪発、中央研究院に於いて漢籍電子文献協調委員会に出席し、6月17日帰国。
  - ・竹沢泰子助教授（西洋部）は、文部省科学研究費補助金により、6月23日成田発、全米日系博物館に於いて国際日系研究調査プロジェクト会議に出席、カリフォルニア大学ロサンゼルス校、同バークレー校に於いて人種理論に関する資料収集を行い、7月8日帰国。
  - ・金 文京助教授（東方部）は、7月15日大阪発、中央研究院に於いて世変と維新：晩明と晩清の文学芸術検討会に出席、論文発表を行い、7月18日帰国。
  - ・勝村哲也教授（附属東洋学文献センター）は、文部省科学研究費補助金により、8月7日大阪発、デンマーク王立図書館に於いてグリーンステッド等によって電子化された資料の調査と収集を行い、8月12日帰国。
  - ・池田 巧助教授（東方部）は、文部省科学研究費補助金により、8月15日大阪発、中国藏学研究中心に於いて安多語の調査研究を行い、8月29日帰国。
  - ・冨谷 至助教授（東方部）は、委任経理金により8月15日大阪発、国立民族学博物館、国立博物館、ライデン大学に於いて研究打合せ及び研究調査を行い、8月25日帰国。
  - ・高木博志助教授（日本部）は、8月26日大阪発、瀋陽、長春、大連市内に於いて近代国家と民衆統合に関わる現地調査を行い、8月29日帰国。
  - ・岡村秀典助教授（東方部）は、文部省科学研究費



- 補助金により、8月16日大阪発、陝西歴史博物館、西北大学、陝西省考古研究所に於いて江南系玉器の調査、焦作市文物工作隊に於いて府城遺跡出土品の調査、北京大学に於いて調査成果の検討を行い、9月3日帰国。
- ・荒牧典俊教授（東方部）は、8月21日大阪発、ローザンヌ大学に於いて国際仏教学会に出席、ベルリン博物館、ハンブルク大学に於いて資料収集を行い、9月3日帰国。
  - ・勝村哲也教授（附属東洋学文献センター）は、文部省科学研究費補助金により、8月28日大阪発、科学アカデミーナツアグドル博物館に於いて中露蒙に関わる資料収集と情報転送実験を行い、9月4日帰国。
  - ・前川和也教授（西洋部）は、7月28日大阪発、大英博物館に於いて大英博物館シュメール行政・経済文書の研究を行い、9月7日帰国。
  - ・富谷 至助教授（東方部）は、文部省科学研究費補助金により、9月3日大阪発、南京博物院、上海博物館に於いて新出文字資料に関する最初情報の収集と調査を行い、9月7日帰国。
  - ・水野直樹助教授（日本部）は、9月3日成田発、ロシア現代史資料研究保管センターに於いて朝鮮関係コミンテルン文書の調査を行い、9月17日帰国。
  - ・森 時彦教授（東方部）は、9月5日大阪発、中国社会科学院近代史研究所に於いて学術講演、交流及び資料収集を行い、9月16日帰国。
  - ・小山 哲助教授（西洋部）は、文部省科学研究費補助金により、9月15日大阪発、ワルシャワ大学歴史学研究所、ワルシャワ国立図書館、チャルトリスキ公家図書館に於いて貴族共和制期ポーランドにおける国政改革論に関する現地研究者との情報交換及び資料調査を行い、9月28日帰国。
  - ・籠谷直人助教授（日本部）は、9月28日大阪発、シンガポール大学に於いて南洋協会刊行史料の調査及び「日本と東南アジアの関係」国際会議に出席し、10月3日帰国。
  - ・高木博志助教授（日本部）は、文部省科学研究費補助金により、9月27日大阪発、ニューヨーク大学文学部、コロンビア大学東アジア研究所、プリンストン大学に於いて日米共同研究に関する打合せを行い、ハーバード大学ライシャワー研究所に於いて「1950年代の諸問題」をめぐるシンポジウムに出席し、10月5日帰国。
  - ・籠谷直人助教授（日本部）は、10月15日大阪発、延世大学国際大学院に於いて「アジア通商網と近代日本との関係1880-1940」に関する研究、資料収集を行い、10月18日帰国。
  - ・高田時雄教授（東方部）は、10月18日大阪発、中正大学に於いて「言語学と漢文仏典について」の講演会に出席し、10月26日帰国。
  - ・勝村哲也教授（附属東洋学文献センター）は、10月26日大阪発、The National Academy of the Korean Language に於いて電算処理に関する国際ワークショップに出席し、10月29日帰国。
  - ・岡村秀典助教授（東方部）は、文部省科学研究費補助金により、10月19日大阪発、山東省博物館、北京大学等に於いて遺址、玉器の調査・打ち合わせを行い、11月4日帰国。
  - ・大浦康介助教授（西洋部）は、11月7日大阪発、中国京劇院に於いて日仏共同演劇プロジェクトへの参加及び京劇研究のための資料収集を行い、11月11日帰国。
  - ・田中雅一助教授（西洋部）は、文部省科学研究費補助金により、11月9日大阪発、シンガポール大学、マカラ国立大学に於いてインド人移民の調査を行い、11月22日帰国。
  - ・真下裕之助手（東方部）は、文部省科学研究費補助金により、11月20日大阪発、大英図書館、王立アジア協会に於いてチャガタイ・トルコ語、ペルシア語文献の諸写本研究を行い、12月1日帰国。
  - ・横山俊夫教授（日本部）は、文部省在外研究員旅費により、10月6日大阪発、ケンブリッジ大学、オックスフォード大学に於いて前近代日用百科書の日英比較研究に関する資料調査を行い、12月5日帰国。
  - ・森賀一恵助手（東方部）は、11月30日大阪発、フランス科学研究センター、フランス社会科学院、東アジア言語研究所に於いて甲骨文発現百周年記念国際会議において報告を行い、12月4日帰国。
  - ・高嶋 航助手（東方部）は、11月30日大阪発、第

一歴史档案馆，南京図書館に於いて清代裁判・財政文書の閲覧及び収集，上海図書館に於いて民国期新聞の閲覧収集を行い，12月14日帰国。

- ・大浦康介助教授（西洋部）は，12月9日大阪発，香港大学に於いて「香港の中の日本／日本の中の香港」に関する研究集会に出席し，12月12日帰国。
- ・田中雅一助教授（西洋部）は，12月9日大阪発，香港大学に於いて「香港の中の日本／日本の中の香港」に関する研究集会に出席し，12月12日帰国。
- ・小牧幸代助手（西洋部）は，文部省科学研究費補助金により，12月10日大阪発，パキスタン国立言語学研究所に於いてパンジャーブ州における言語とイスラーム化の問題に関する調査，科学アカデミー歴史研究所に於いてウズベキスタンにおけるイスラーム化の問題に関する調査，ウルドゥー語学研究所に於いてパンジャーブ州における言語とイスラーム化の問題に関する調査，ジャマアテ・イスラミー イスラマバード支部に於いてパキスタンにおけるイスラーム化の問題に関する調査を行い，12月27日帰国。
- ・勝村哲也教授（附属東洋学文献センター）は，文部省科学研究費補助金により，12月16日大阪発，国立国語研究院に於いて朝鮮文献の集成に関する研究打ち合わせと成果とりまとめを行い，12月18日帰国。
- ・高田時雄教授（東方部）は，12月16日大阪発，北京大学歴史系に於いて中西交渉史に関する研究及び講演を行い，12月30日帰国。

CONTENTS

The Road to Boshin Civil War through the Last Days of the Tokugawa Regime .....	S. Sasaki	1
The Creation of a Mythological Past in Modern Japan : The <i>Trinity</i> of Sacred Places Associated with Emperor Jinmu .....	H. Takagi	19
Kyoto Prefectural Police in the Days of Satsuma Rebellion .....	H. Ochiai	39
The Structure of "Assimilationism" as a Colonial Policy .....	Y. Yamamoto	57
A Narratological Approach to the Works of Soseki : Reconsidering the Concept of <i>Shaseibun</i> .....	Y. Oura	75
The Enactment of the Peace Preservation Law in 1925 and Colonial Korea .....	N. Mizuno	97
The Indian Merchants and the Export Controls of Japanese Cotton Textiles in the 1930's .....	N. Kagotani	125
The Genealogy of Recognizing Language Problems in Pre-war Japan .....	T. Yasuda	143
Do Birds Pronounce Human Words ? : The Formation of <i>kikinashi</i> .....	H. Kobayashi	185
Ethnography of <i>Modan</i> (modernity) : Through the Life History of a Noodle-maker in Okamachi, Toyonaka City, Osaka Prefecture .....	A. Kikuchi	195
The "Enlightenment" and the Voyages .....	T. Sakagami	227
Politics of Family : A Reconsideration of the Frankfurt School's <i>Studies of Authority and Family</i> .....	N. Ueno	247
The <i>Zat-Biradari</i> System in a North Indian Muslim Society : An Analysis of Status Ranking and Differentiation of Muslim Groups .....	S. Komaki	275
Paul Valéry and the Crisis of Representation .....	A. Morimoto	315